

平成30年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」をめざし、「可能性」と「心」を育成
学校運営	文科省SGH(スーパーグローバルハイスクール)校としての研究開発の中間報告において、本校は最高評価を得ることができた(2017年度)。「他人の不幸のうえに自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な信条から出発した「世界市民教育プログラム」をさらに推進する。 同時に、その主体者たる生徒自身の限りない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育てていく。 また創立以来の教育指針である「校訓」を再認識し、「教師自身が最大の教育環境である」との自覚に立って、価値創造の教育実践を重ねていく。

2. 教育活動における重点項目

〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. 「主体的・対話的で深い学び」による授業を全教科での推進
2. 探究型総合学習GRITの生徒満足度の向上
3. 英語力の育成(CEFR・B1レベル以上)
4. 情報リテラシーの向上とタブレット活用機会の拡大

〔2〕「可能性」の育成のために

1. 平日2時間以上の家庭学習を定着
2. 学校設定科目SPへの参加
3. スタディサプリを活用し、学力を向上
4. キャリア教育をもとにキャリアデザインの明確化
5. 名作・長編の読書に挑戦

〔3〕「心」の育成のために

1. 創立精神学習の深化と実践
2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養

【自己アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[平成31年2月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを学び、飢餓の問題、ジェンダー平等、安全なトイレ、水問題などの国際課題に関心をもった。 ・探究活動を通し、自分の生活におけるアクションプランを考えようになった。 ・素朴な疑問からより広く問いを立てられるようになった。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの手法など1年毎に成長している。 ・友人と協働して探究活動している姿を評価している。 ・探究活動に注ぐ力と同様に日々の学習と読書に更に努力し挑戦して欲しい。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GRITが定着し、評価方法の研究に着手をした。 ・SDGsの学習活動が定着した。 ・学びの手法を研究し授業に導入した。 <p>【分析】</p> <p>SGH4年目を終え、学びから計画立案、実践への取り組みがみられるようになった。「知る、理解する」から「考える」「行動する」へと変容しており、目標として掲げてきた「共感力」「問題解決への創造力」が育ってきている。各行事の取り組みを振り返る機会をもつことによって、生徒が自分を俯瞰する力をつけてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SGHの探究活動のGRITが外部機関などからの評価も高いので、SGHの各プログラムを継続すべきだ。 ・クラブをはじめ、諸活動がオーバーワークになっていないか心配だ。いろいろな活動を掛け持ちしている。すべてをこなすのは大変で勉強との両立は難しい。 ・自主学习スペースを有効活用し、自立した学習態度が育まれている。アクティブラーニングや授業での教え合いを通し、「主体的な学び」が深まっている。

【学校目標の主な総括】

	今年度の重点目標	取り組みの内容	評価	改善点
主体的・対話的 授業の取 組りで深 い学び	各授業において、「主体的・対話的で深い学び」の授業(アクティブラーニング)を推進する。 80%以上の教員の実施を目標とする。	オープンクラスウィークを設定し授業実践の相互交流を行い、教員間で触発しあう。 校内外での研修に積極的に参加し、教育技術を高める。	評価⇒2018年度は90%の授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる。 評価A。	改善点⇒更に授業公開を推進し啓発の場を作る。授業公開のテーマを明確にし、教育力の向上を目指す。また、校外の研修にも積極的に参加する。
G 探 R 究 I T 総 合 学 業 習	SGHのメインプログラムである探究型総合学習GRITの充実を目指す。 グローバルイシューへの関心度80%を目標とする。	1年次、GRITで探究基礎を学び、UPクラスの参加をすすめ、世界の諸問題に関心を持つ生徒を増やす。 2年次、大学教員の前でプレゼンテーションし、発表力を伸ばす。また、下級生にポスターセッションを通し、全員が発表力を伸ばす。 3年次、学年全体で模擬国連を開催し、全員が各国の大使となり自国の課題解決に向けて他国の大使と交渉し、1つの結論を導く取り組みをした。	評価⇒グローバルイシューへの関心度は目標を達成。SDGsを知るだけでなく学び考え行動に移せたことが大きな進歩となった。 評価A。	改善点⇒国際課題への関心度はほぼ達成できた。「探究」におけるパフォーマンス評価の導入を検討する。
英語 受検の 育成と 推進	国際課題解決に必要な力として、英語力の育成に取り組み、学力向上を目指す。 CEFR(B1以上)の力をつけた生徒を50%以上にする。	チームティーチングや少人数編成の授業できめ細やかに指導した。 放課後に英検対策補習を実施した。	評価⇒2018年度は、43%と目標値を下回ったが、100名以上の生徒が準1級へ挑戦した。 評価B。	改善点⇒入学後の早い時期から英検受検を推進していく。 明年度の目標も50%とする。
キャリア 教育の 充実	進路指導部主催のキャリア教育を更に充実させる。 国立大学、難関私立大学の50名以上の合格者をを目指す。 海外の大学進学10名以上を目標とする。	入学時にキャリアデザインのセミナーを受講し、キャリアデザインマップを作成する。学年の終わりに振り返りをした。 学びの振り返りを行い、自分自身を俯瞰する力を伸ばすことに挑戦した。 海外大学、大学院を卒業した英語科スタッフがサポートしアメリカ創価大学だけでなく海外大学進学に挑戦した。	評価⇒2018年度は、23名が国立大学、60名が難関私立大学、9名が医学部に合格、また11名が海外大学に進学した。 評価A。	改善点⇒海外大学進学の指導体制は確立しているので今後も継続する。 明年度は10名以上とする
生徒の 可能性 を育成	スタディサプリの活用とともに日々の自主的な学習を推進をする。	放課後の各種補習(アドバンスやベシック)、キャリア教育、また導入されたスタディサプリの有効的な活用例を紹介した。	評価⇒平日2時間以上の家庭学習の定着には個人差が大きく、時間管理の指導が必要。 評価C	改善点⇒部活動の時間検討や時間を工夫して使う学習などを推進する。 明年度も1日2時間以上の家庭学習について50%を目標とする。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	達成度評価	評価平均値	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動・実践における重点項目	[1]「平和の創造」に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	1. 主体的対話的深い学びが授業の中に取り込まれている授業の推進	全教員を対象にして研修を実施 授業・GRITにおける探究の導入と実践	A	3.1	主体的対話的で深い学びの授業導入が、昨年以上に進んだ。研修会を実施し、教員の意識の啓発を図った。一校内研修の充実、校外での勉強会にも積極的に教員を派遣。さらに高いレベルを目指す。探究型授業の研究。
		2. 探究型総合学習GRITがよかったと評価する生徒数の増進	校内の環境フィールドワーク／虫の学習／アースカムプロジェクト体験口貿易ゲーム／持続可能な開発目標(SDGs)学習口人権学習／世界人権宣言学習口核軍縮交渉シミュレーション口グループでのまとめ・プレゼンテーション	A	3.1	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・シチズンシップセミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高校生会議、サミットで結実した。一教員自身の研鑽を継続。さらに視野を広げ、これまでにない分野にも目を向けたい。
		3. 英語力の強化と英検受検の成績向上	TOEIC講座の充実／検定試験受検補助 創大留学生を招いてのグローバル・キャンプの実施 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 SGH海外フィールドワークを実施	A	3.7	グローバルキャンやSUA教職員との懇談会、SUA留学生との交流等、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。英語検定試験受検後の補助によって受検者が増加した。これに伴い、英検合格者数も飛躍的に増加し、高校3年卒業時に学年の56%が英検2級レベルの力をつける目標は、更に努力が必要である。※TOEICでのスコアも含む。海外フィールドワークにより、更に語学に対する関心が高まった。一授業の充実とともに対策講座の継続。各級の合格者を増やす努力をさらに重ねる。
		4. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの活用	情報リテラシー教育の実施 教師・生徒のIpad活用の実施と促進 全員にタブレットを貸与。	A	3.7	ICT委員会が主導して、全校生徒全員のICT環境を整える。一タブレットを活用した授業の展開。授業に役立つアプリの活用・研究。家庭学習への活用。使用上のルールの徹底。
	[2]「可能性」の育成のために	1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増加。	SPのBasicコース開講 各教科における日常的な問題集の活用 スタディサブリの導入。授業・家庭学習での活用。	B	2.5	英語科・数学科をはじめとする教科できめ細かい指導を行っている成果が徐々に出てきている。放課後のSPをきっかけに家庭での学習に取り組む生徒が増えてきた。まだまだ努力が必要だが、スタディサブリの導入により、タブレットを活用した反転学習の拡充に取り組む。 →スタディーサブリの活用。反転学習の具体的な実践。
		2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進	SPクラス(Advanced Math・Basic Math)の実施 SPクラス(Advanced English・SUA English)の実施 ラーニングクラスターの充実・SGH海外フィールドワークの実施	B	2.4	放課後に実施したSPクラス(生徒のニーズに応じた講座)で学力とともに進学実績も向上した。UPクラスを開講したことで、大学レベルの学問にふれ、学習に対する意識が大いに向上した。 →放課後に実施することで、リーダー育成講座をはじめとする諸行事と重なり、生徒の活動に影響が出ている。新カリキュラムの編成とも関わる関わる課題となり、講座と放課後の諸活動の整理ができつつある。 学年を絞ることにより、参加者数が増加し安定した。
		3. スタディサブリの到達度テストを活用し、成績アップさせた生徒の増進	1年次から3年次の夏まで、5回の学力到達度テストを実施 到達度テスト後、結果に基づき個別に課題克服の指導を実施。 2年次9月と3月に創大推薦模擬試験等を実施	B	2.4	スタディサブリ実施により、基礎学力に関する課題を個別に把握が可能となり、より効果的な学習指導ができた。実際にテストの点数・学習時間ともに向上している傾向。 →個別の課題についての学習指導を徹底し、継続する必要がある。
		4. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進	キャリアガイダンスの実施(1・2年次) 適正診断の実施(1年次) 創大研修での講義受講(2年次) 弁護士による人権講座を実施	B	2.6	今年度は、創備大学研修でのキャリアデザイン講座を2年生が受講したことに加え、創備大学キャリアセンターより講師を招いて、入学時に新入生対象のキャリアデザインの講座を開催し、キャリアデザインマップの作成に取り組みした。また、学年の終わりにマップの更新ができた。 →志望校・志望学部への選択や将来の職業選択がより具体化するよう、努力を続ける。
		5. 名作・長編の読書運動に年間を通して挑戦したという生徒数の増加	朝読書の実施と充実 「図書館に行こうDay」を毎月開催 「Book-Navi Day」での教員からの良書を紹介 ビブリオバトルによる生徒参加型の読書の推進 各種読書コンクールへの応募推進	B	2.7	「Book-Navi Day」で教員が推薦図書を紹介していることや図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。名作駅伝、ビブリオバトルなど生徒主体の読書推進活動も定着。読書感想文コンクールをはじめ、各種コンクールで多数の入賞者を出すことができた。 →成果も多いが、良書に親しむ生徒の率が増加した。
		教育力向上のための取り組み	[3]「心」の育成のために	1. 創立精神学習の深化と実践	リーダー育成講座を実施 アーカイブを活用	B
2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養	探究学習の中で多様性を学ぶ機会を作る。			B	2.6	総合的な学習の時間で行う「GRIT」で、世界市民として必要な資質である「多様性」を尊重する心を育て、「共感力」を涵養する探究の時間を実践した。 →持続可能な開発目標アジェンダ2030を学習し、何ができるかを考え、生徒が実践できることを計画立案を育成する。

※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9～2.0をB、1.9以下をCとした。
※評定平均値は、全教職員が4段階で評価した平均値。